

相手のことを考えて、行動する実践力を育てる授業づくり

岡山市立芳泉小学校ひばり分校 教諭 森永進

小学校2年 道徳
「新・ざわざわ森のがんこちゃん」

【活用回・番組紹介】「さんせい?はんたい?」

放送開始から21年目で、幼稚園・保育園から小学校低学年まで、楽しんで道徳を学べます。人形劇で楽しく基本的な生活習慣や集団生活のルールを子どもたちに伝えます。

【本学級の学習スタイルと実態と関連したねらい】

- A 学びを意味づけてから行動するのが得意 38.2%
 - B 行動しながら学びを意味づけるのが得意 17.6%
 - C 時間をかけて学びを意味づけるのが得意 44.1%
- 学びから逃げる傾向は見られないが、内容や進め方について理解することに手間どり、学習を進めていくことに難しさを感じている子が少なからずいる。各単元や時間で導入をていねいにするように授業設計を心がけた。

【授業デザイン】お楽しみ会をせいこうさせよう

1 いままでのお楽しみ会のときのことをふりかえり、課題意識をもつ

- 前学期末のお楽しみ会の内容検討などの話し合いのときのことを板書の写真などを提示して思い出す。
- 前回のお楽しみ会でトラブルが起き、めあて通りにいかなかったことを伝える。

2 番組視聴

「相手のことを考える」について考える

「みんなが楽しめるようにするためにはどんな話し合いがよいのか」を考えるという問題を設定して、「第10回～さんせい?はんたい?～」を視聴。

3 ツムちゃんやがんこちゃんの心情を中心に感想を出し合い、板書で整理する

視聴後、おもな番組のシーンを時系列で提示しながら、感想を発表していく。

4 焦点を絞った話し合いをしていく。

発問：「ツムちゃんはリレーに話し合いで決まったとき、どう思ったのでしょうか？」

リレーするとも

んなに悪いなあ。

何でリレーなの、仕方な

いなあ。

5 自分たちの学級のよさに気づき、まとめとする

いまでのお楽しみ会のことを振り返りながら、道徳的価値について確認する。学年始めにみんなでつくった学級目標「やさしくたすけあう2年F組」と考え合わせて、学級のよいところを見つけて、ワークシートに書く活動をする。自分たちがあまり意識していない成長の様子を意識化することにつなげていく。

【今回の実践における番組効果】

- 情緒に訴え、望ましい心情や態度を育てる。
- よりよいコミュニケーションのあり方を示し、学習者の対話による学びを促進する。
- 表情や声色から、人物の心情を理解する能力が高まる。

【深い学びに関する教師の工夫】

多数決で「リレー」をすることを決めることが、ツムちゃんを困らせることに気づいたがんこちゃんの心の変化を理解する。そのうえで、今までのお楽しみ会について振り返り、話し合いをするときに気をつけていけないことを理解する。

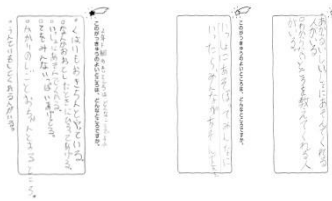
○視聴後の展開の工夫

ツムちゃんの立場に立って考えると、多数決で決めたことだから、「よい」とか「仕方ない」とかで実行することが本当によいことなのかを考えることを進めた。その際、ツムちゃんの心情に寄り添った話し合いを進められるように、該当シーンを黒板に提示した。



○学級のよさに気づき、集団帰属意識を高める活動

本学級は、学級の集団としての帰属意識が少し低い傾向が見られる。相手のことを考えて何かしている友達の姿に気づく機会とともに、帰属意識を高めるために、学級のよいところみつけの活動を取り入れた。



【成果と課題】

人によっては上手にできないことがあることについて、大半の児童が気づくことができた。番組の中で、自分がけがをして普通に走ることができなくなった主人公のがんこちゃんの心情の変化が気づきの助けとなった。また、お楽しみ会という興味を持ちやすく、体験のしたことがある内容なので思考を深めることができる内容であった。相手のことを考える「優しさ」を学級目標の一つに掲げている。自分たちの学級のよさを振り返る活動を入れることで、学級目標の達成感とともに帰属意識を高めることができた。次回のお楽しみ会の話し合いに生かしたい。